

2014年度第1四半期決算説明会 質疑応答

【開催日】 2014年8月7日（木）16:00～17:00

【出席者】 常務執行役員 CFO：内野 州馬

執行役員 主計部長：増 一行

IR 部長：武久 裕

【質疑応答】

① 2014年度第1四半期決算

Q. 14年度第1四半期並びに13年度第1四半期IFRSベースの一過性損益。

A. 14年度第1四半期の一過性損益は43億円の利益。13年度第1四半期のIFRSベースの一過性損益は110億円の利益と▲4億円の損失がありネットして106億円の利益。

Q. LNG事業からの受取配当金の期ずれの影響額。

A. LNG事業からの受取配当金の期ずれは、税前で200億円程度。

Q. 営業キャッシュ・フロー、運転資金負担の内容及びフリーキャッシュ・フローの通期見通し。

A. 営業キャッシュ・フローは、営業収入や配当収入による資金増があったものの、法人税支払いや、輸入消費税の一括支払いや子会社のたな卸資産増加などの運転資金負担による資金減により小幅なプラスに止まった。今年度のフリーキャッシュ・フローは、運転資金負担などの要因も含まれる為、予想しづらい面もあるが、ブレークイーブンとなる見通し。

Q. ファンド関連事業における収益増の内容。

A. プライベートエクイティ系のファンドや不動産系のファンド等により、前年同期比で約+65億円の利益。

Q. 機械グループの業績。

A. 進捗率が良かった最大の理由は、当初の想定よりもタイの自動車事業の落ち込みが少なかったため。総じてグループ全体としては好調に推移している。

Q. 生活産業グループの業績好調の理由。

A. 主に食肉相場の高騰により、畜産関連事業が収益増となったもの。

② IFRS 関連

Q. (説明会資料 8 ページ) 13 年度第 1 四半期決算の IFRS への組替における、「その他(期ずれ調整他) +218 億円」の内容。

A. サハリン II への投資会社等の期ずれを調整したもの。

Q. 13 年度第 1 四半期決算のグループ別業績の米国会計基準と IFRS の差異。

A. エネルギー事業グループは LNG 事業からの受取配当金の期ずれ修正等により約 +120 億円、機械グループの保有資産の評価益等により約 +90 億円、金属グループで税金の調整等により約 ▲50 億円。

③ 投資計画／資産入替

Q. 資産入替の進捗状況と今期見通し。

A. 資産入替は約 1,200 億円。「経営戦略 2015」でご説明の通り、年平均で 5,000 億円程度の資産入替を想定しているため、ほぼ想定通りのペース。

Q. 資産売却に伴う損益。

A. 約 50 億円程度の利益。

Q. 資産入替の内容。

A. 資産売却 700 億円の主なものは航空機。残りは小口の集積。

④ 個別案件

Q. 原料炭事業 (MDP) の前年同期比の増減要因。

A. 価格・販売数量要因は ▲224 億円、為替・コスト他要因は +112 億円となり、ネットした前年同期比の増減は ▲112 億円となる。

Q. 2014 年度の MDP 業績見通し。

A. コスト削減・生産性向上等の施策を継続的に実施しているものの、市況の回復が遅れていることから予断を許さぬ状況と見ている。

Q. シェールガス開発関連の進捗状況。

A. シェールガス事業は、まだ収益貢献していない状況。

Q. 銅事業における生産数量の状況と配当見通し。

A. チリの Anglo American Sur の生産数量については、後半は少し減る可能性がある。配当金は各プロジェクトの状況により計上時期が変動する可能性がある。

以 上